

稲作情報 No.9

〔7月2日水稻調査結果、大豆培土〕

水田農業レベルアップ委員会技術普及部会（農業試験場、生産振興課、JA経済連、主要農作物振興協会）

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku/inasaku.html>

斑点米カメムシの発生が平年の5倍！！

7月上旬までに畦畔の草刈を行いましょ。大麦収穫後の雑草すき込みも行いましょ。

畦畔草刈り実践デー 2回目：7月4日（土）、5日（日）

水稻

【農業試験場水稻気象対策試験のコシヒカリの生育】（6月29日）



圃場の外観

適期田植えコシヒカリ（5/20植え）



稲株の拡大（茎数平均23.1本/株）



圃場の外観

直播コシヒカリ（5/11播種）



稲株の拡大

（茎数497本/m²、21～22本/株）

水稻気象対策試験は、気象条件が水稻の生育に与えた影響を比較するため、毎年同一の栽培管理を行っています。

- 斑点米カメムシ類の発生が多いため、6月30日に農作物病害虫発生予察注意報第1号が発表されました。
- コシヒカリは平年より遅く最高分けつ期を迎えて始めています。草丈は平年よりやや短く、茎数はやや多い。
- 収穫間際まで間断通水ができるよう田面を固めるために、中干しを幼穂形成期直前まで行い、茎数過剰を防ぎましょ。

【今後の栽培管理】

品種	今後の管理																							
<p>適期田植え コシヒカリ</p> <p>直播 コシヒカリ</p>	<p>【中干し】</p> <ul style="list-style-type: none"> 暗渠排水を利用して速やかな排水を心がける。 中干し期間は幼穂形成期直前まで。乳白や胴割粒の発生を防ぐための間断通水を収穫直前まで行えるようにする。 <p>【倒伏軽減対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来週末に幼穂形成期を迎える圃場もあると予想される。 幼穂形成期を迎えたら生育状況を確認して穂肥の施用や倒伏軽減対策の実施を検討する。（別ページ参照） <p>【直播コシヒカリの中期深水管理を終了】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中期深水管理を実施した圃場は9葉期を迎えたことを確認して深水管理を終了し、中干しを行う。 			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">中干しの程度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強い</td> <td>地力のある湿田、生育が旺盛な圃場</td> </tr> <tr> <td>弱い</td> <td>乾田</td> </tr> <tr> <td>間断通水程度</td> <td>地力のない砂質浅耕田</td> </tr> </tbody> </table>			中干しの程度		強い	地力のある湿田、生育が旺盛な圃場	弱い	乾田	間断通水程度	地力のない砂質浅耕田										
中干しの程度																								
強い	地力のある湿田、生育が旺盛な圃場																							
弱い	乾田																							
間断通水程度	地力のない砂質浅耕田																							
<p>移植 ハナエチゼン</p>	<p>【幼穂形成期以降の水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。 <p>【穂肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回目は1回目の10日後に2回目穂肥を窒素成分で2kg/10a施肥する。例年より明らかに茎数が少ない、または葉色が薄い場合は、2回目の穂肥施用量を窒素成分で1kg/10a追加する。（計3kg/10a施用） 基肥一括施肥の圃場でも、例年より明らかに茎数が少ない、または葉色が薄い場合は、上記と同様に<u>出穂期10日前～14日前に追加施用する。</u> 																							
<p>移植 あきさかり</p>	<p>【中干し】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中干しを継続する。過剰分けつは倒伏するので注意。 <p>【病害】</p> <ul style="list-style-type: none"> 圃場を観察し、葉いもち、紋枯病、白葉枯病に注意する。 																							
<p>移植 イクヒカリ</p> <p>【5/初田植は 幼穂形成期】</p>	<p>【幼穂形成期以降の水管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 間断通水を励行し、根に水分と空気を供給する。土壤水分が不足すると窒素の吸収が抑制され肥効が劣ることがある。 入水側だけでなく排水側の乾燥程度も確認しながら水管理を行う。 <p>【穂肥】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分施体系の施用基準 			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">穂肥1回目の目安</th> <th colspan="3">N施肥量(kg/10a)</th> </tr> <tr> <th>幼穂長</th> <th>出穂前</th> <th>葉色</th> <th>1回目</th> <th>2回目</th> <th>(3回目)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2mm</td> <td>23日</td> <td>4.0～4.3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・1回目の穂肥を遅れずに施用して葉色を濃くして登熟期まで葉色を維持する。2回目は1回目の10日後に施用する。</p> <p>・礫質田、砂質乾田、浅耕土水田など肥持ちが悪く地力の乏しい水田では、全体の穂肥施用量を窒素で1kg/10a程度増やし3回に分施する。この場合の施用間隔は1週間ごとに行う。</p> <p>【病害虫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 圃場を観察し、紋枯病、ニカメイチュウに注意する。 			穂肥1回目の目安			N施肥量(kg/10a)			幼穂長	出穂前	葉色	1回目	2回目	(3回目)	2mm	23日	4.0～4.3	2	2	(1)
穂肥1回目の目安			N施肥量(kg/10a)																					
幼穂長	出穂前	葉色	1回目	2回目	(3回目)																			
2mm	23日	4.0～4.3	2	2	(1)																			

【コシヒカリの倒伏軽減対策】

1. 幼穂形成期(幼穂長2mm)に生育状況を調べる

- 草丈(cm)、莖数(本/m²)、葉色(葉色板)を平均的な生育の所で計測します。
- 草丈×莖数×葉色の値を算出します。

2. 基準値と比較する

- 草丈×莖数×葉色の基準値
移植コシヒカリ 160,000
直播コシヒカリ 120,000(移植より根が浅い、莖1本当たりの乾物重が小さいため倒伏しやすい)

- 基準値を超える場合は、倒伏程度が大きくなると予測されるので、倒伏軽減剤を使用します。

ロミカ粒剤	出穂25～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない、黒ボク土壌では効果が劣る場合がある
スマレクト粒剤	出穂15～10日前	2～3kg/10a	湛水散布、7日間は落水やかけ流しをしない(砂壤土では2kg/10a)
ビビフル粉剤DL	出穂10～5日前	3～4kg/10a	散布

【高温時の水不足対策】

1 漏水の有無の確認

- 高温、多照が続き、田面や稲体からの蒸発や蒸散作用が大きいため、1日1回水回りをして、畦畔や水尻部からの漏水がないよう止水確認を行う。

2 計画配水と水源の確保

- 水不足が懸念される場合には、地域や集落で用水系統や団地毎に入水時間を申し合わせるなど、計画的に用水の供給を行う。
- 水不足が深刻なところでは排水路からのポンプアップを行う。湛水深は極力浅水とし、節水栽培に努める。

3 塩害対策

- 九頭竜川の下流域や北潟湖周辺等で、用水に塩水が混入する恐れのある地帯では常に用水の塩分濃度をチェックし、塩分濃度が700ppm以上となった場合には、集水口を水面近くに移動する。塩分の許容限界はECメーターで1.0mS/cm以下で、通常塩素イオンが濃度500ppm以下の水を使用していれば障害の発生は少ない。

【病害虫等の発生状況と対策】

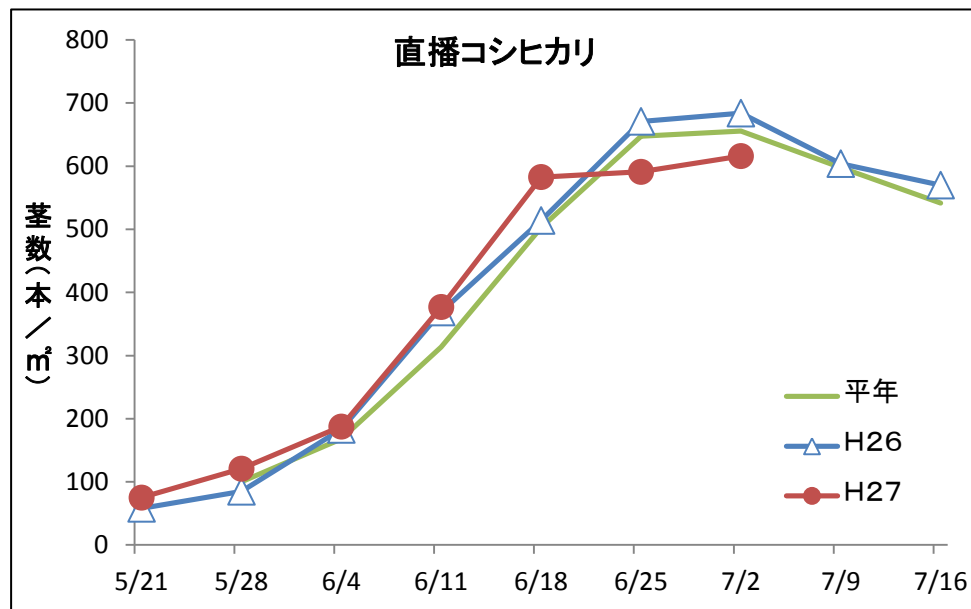
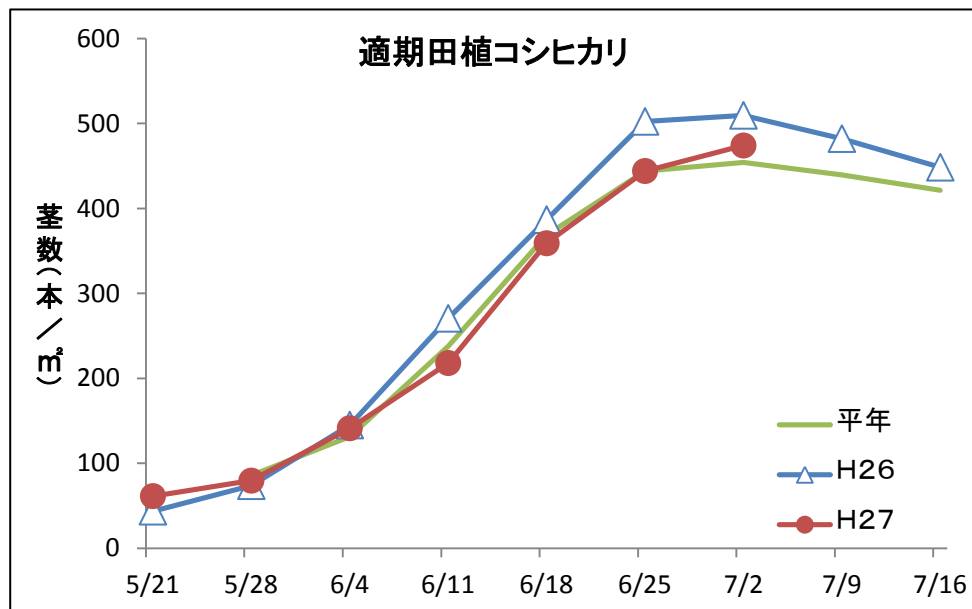
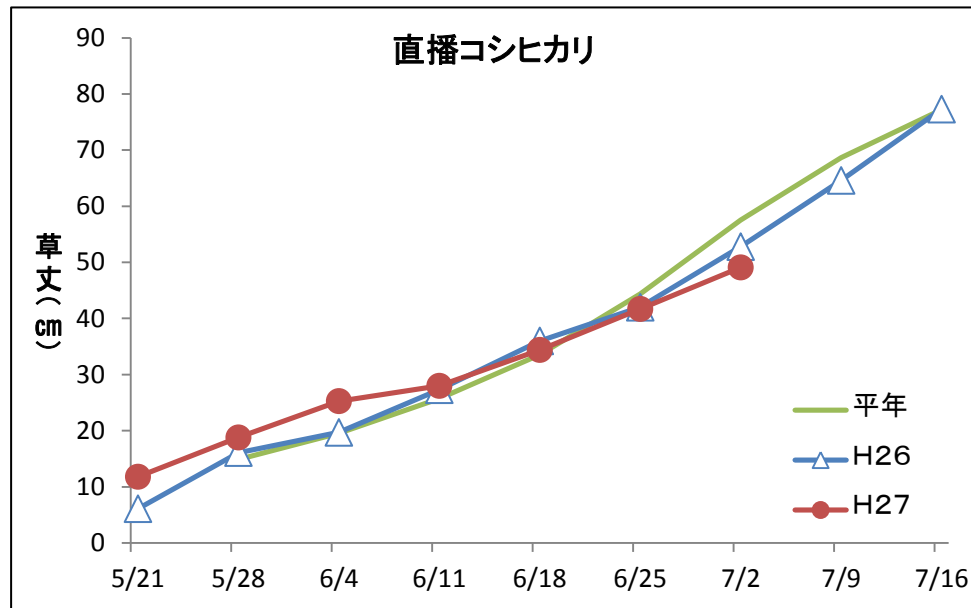
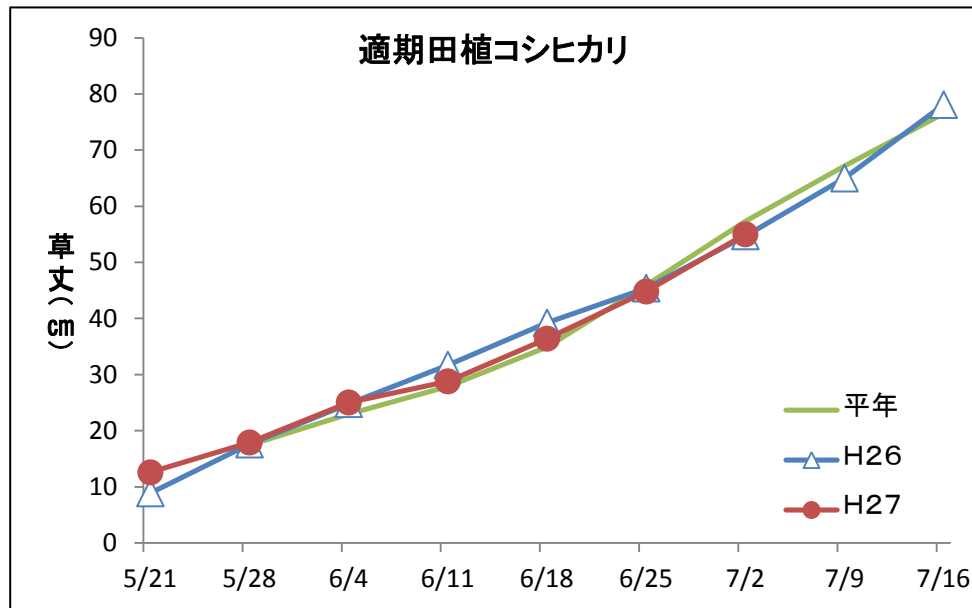
病害虫	発生状況と対策																																																																																																																										
<p>葉いもち</p>	<p>【発生状況】 BLASTAM（ブラスタム）によるいもち病の感染好適条件の出現は少ない。</p> <p>【対策】 ・ 予防粒剤の苗箱施薬や本田散布を行っていない圃場、常発地、適期田植えや直播栽培、生育が旺盛で葉色が濃く葉が垂れている圃場で特に注意して観察する。 ・ 圃場を見回って、発病を見つけたら治療効果のある薬剤を散布し蔓延を防ぐ。 ・ ケイ酸質資材は稲体を硬くしていもち病菌の侵入を抑制する効果があるといわれている。最高分げつ期頃（今週）に施用する。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>6/22</th> <th>6/23</th> <th>6/24</th> <th>6/25</th> <th>6/26</th> <th>6/27</th> <th>6/28</th> <th>6/29</th> <th>6/30</th> <th>7/01</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三国</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>春江</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>越廼</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>●</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>福井</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>勝山</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>大野</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>●</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>今庄</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>敦賀</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> <tr> <td>美浜</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>●</td> </tr> <tr> <td>小浜</td> <td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td> </tr> </tbody> </table>		6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/01	三国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	春江	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	越廼	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	福井	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	勝山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	大野	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	今庄	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	美浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	小浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/01																																																																																																																	
三国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																	
春江	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																	
越廼	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-																																																																																																																	
福井	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																	
勝山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																	
大野	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-																																																																																																																	
今庄	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																	
敦賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																	
美浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●																																																																																																																	
小浜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																	
<p>紋枯病</p>	<p>【対策】 ・ 垂直進展初期は平年並み。早生で7月第3半旬、中晩生で7月5半旬。 ・ 8月上旬までに出穂する圃場では穂ばらみ期～出穂直前、8月中旬以降に出穂する圃場では7月下旬に薬剤を散布する。 ・ 穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。 ・ 紋枯病が発生した圃場では、菌核が残っており次作の伝染源となる。前年に発生があった圃場では、必ず防除を行う。 ・ 早生、短稈品種では被害が大きくなりやすいので注意する。</p>																																																																																																																										
<p>カメムシ類</p>	<p>【発生状況】 ・ 6月30日に斑点米カメムシ類に対して注意報が発表されました。 ・ 水田周辺雑草地でのすくいとり調査では、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ等が平年の約5倍。 ・ 大麦跡のそば作付け予定地の雑草にも多い。雑草管理を徹底する。</p> <p>【対策】 ・ 成虫の発生最盛期は7月4半旬で早生の出穂期～穂揃期と一致すると予想される。 ・ 粉剤・液剤の防除は穂揃期～乳熟期（出穂3～5日後）と糊熟初期（出穂10～14日後）の2回行う。 ・ 詳細は、平成27年農作物病害虫発生予察注意報第1号 (http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo_d/fil/27kame1.pdf) 参照。 畦畔草刈り実践デー：2回目：7月4日（土）、5日（日）</p>																																																																																																																										
<p>その他</p>	<p>【ニカメイチュウ】 ・ 発生量は平年並み。第1世代成虫発生最盛期は平年より早い7月5半旬頃 ・ 発生量が多いところでは7月5半旬から7月6半旬に防除を行う。 ・ 前年発生が多かった圃場、窒素施用量が多く葉色が濃い圃場、直播等熟期が遅い圃場、もち品種等で注意する。</p> <p>【イネツトムシ】 ・ 第2世代幼虫加害最盛期は7月5半旬、被害程度は少発、局中発、発生量は平年並み、前年より多いと予測されている。</p> <p>【イネアオムシ】 ・ 第2世代幼虫加害初期は7月5半旬頃、被害程度は少発、局中発、平年並み、前年より多い。 ・ 過繁茂のイネや山間地など風通しの悪い地域で被害が大きくなるので注意が必要である。</p>																																																																																																																										

【生育調査結果】

調査日：平成27年7月2日

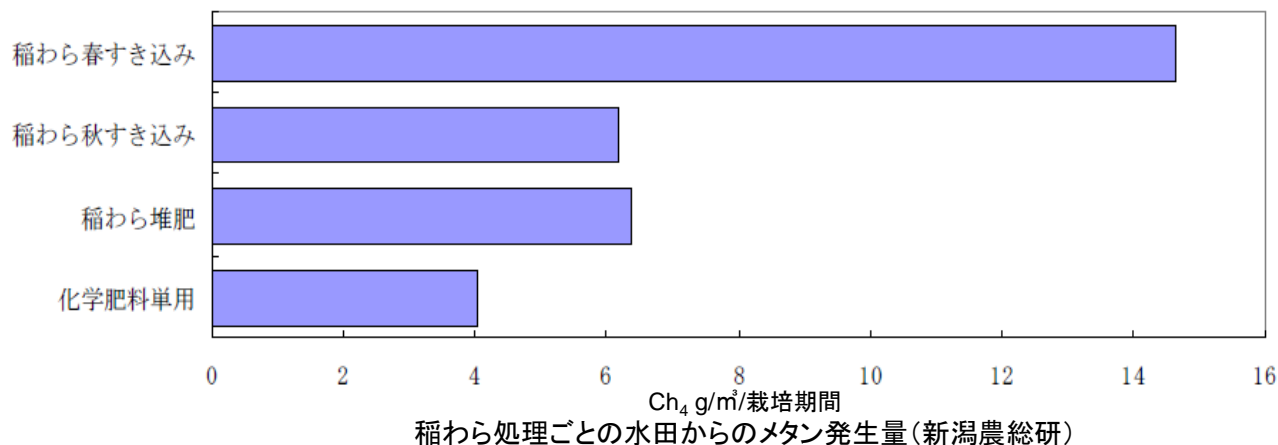
		ハナエチゼン			コシヒカリ								あきさかり		
		農試	坂井農場	現地	農試		坂井農場		現地・慣行		現地・特別栽培		農試	坂井農場	現地
		移植 5/2	移植 5/1	移植 5/3	移植 5/20	直播 5/11	移植 5/15	直播 5/8	移植 5/17	直播 5/3	移植 5/20	直播 5/5	移植 5/2	移植 5/15	移植 5/13
草丈 (cm)	本年	55.2	62.9	55.4	49.2	41.4	52.9	48.5	55.0	49.1	46.9	49.6	49.1	51.2	53.7
	平年	57.2	60.8	59.1	51.6	49.5	57.6	50.9	57.3	57.5	—	58.2	55.5	55.6	54.9
茎数 (本/株) (本/m)	本年	24.7 514	25.9 508	26.2 476	23.1 480	497	23.2 408	685	27.2 474	616	26.6 506	543	29.9 622	29.2 514	29.0 542
	平年	29.6 616	26.0 510	28.5 518	25.0 520	653	26.4 464	556	26.1 454	656	—	555	33.3 693	29.9 527	25.8 483
葉齢 (枚)	本年	11.4	11.7	10.9	9.5	9.1	10.3	9.3	9.7	9.4	8.9	9.2	11.2	10.2	10.3
	平年	10.9	11.2	10.9	9.9	8.9	10.0	9.2	9.6	9.5	—	9.3	10.8	10.0	10.9
葉色 (葉色 板)	本年	4.5	4.4	4.2	4.7	4.3	4.0	4.2	4.1	4.0	4.0	3.9	4.4	4.6	4.8
	平年	4.4	4.5	4.4	4.5	4.2	4.3	4.5	4.2	4.3	—	3.8	4.7	4.7	4.6
幼穂 形成期	本年	6/25	6/25	6/27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	平年	6/28	6/28	6/28	7/13	7/16	7/10	7/16	7/12	7/15	—	7/11	7/10	7/14	7/10
出穂期	本年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	平年	7/19	7/17	7/19	8/3	8/7	8/2	8/8	8/1	8/4	—	7/31	8/3	8/8	8/1
草丈× 茎数× 葉色	本年				110,995	88,476	86,333	139,535	106,887	120,982	94,926	105,038			
	平年				120,744	135,759	114,924	127,352	109,260	162,196	—	122,744			

【コシヒカリ生育経過】



初期生育が悪かった圃場でガスが発生していませんか

- 苗質はよかった、施肥量は計算どおり、なのに初期生育が悪かった。そのような圃場の中を歩いた時ガスがブクブクと出てきませんか。
- わらを遅くすき込むと、稲わらが十分腐熟しないため、田植え後、わら分解に施肥窒素が使われ、稲の初期生育が悪くなります。
- また、有機酸や根腐れの要因となる硫化水素やメタンガスも発生しやすくなり、適正な分けつの確保が困難となり、後できとなり節間が伸びやすく倒伏の原因にもなります。
- 稲わらは収穫後早めにすき込んでわらの腐熟を促進させましょう。



稲わらを秋にすき込むことにより、分けつ期の土壌の異常還元が抑えられ、地球温暖化ガスであるメタンガスや根腐れの原因である硫化水素などの発生を抑制する。

秋の田起こしでおいしい米づくりを！
～早めに稲わらをすき込んでわらの腐熟を促進しましょう～

作業

作業の注意点

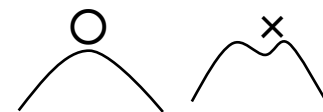
培土・中耕

【培土・中耕の効果】

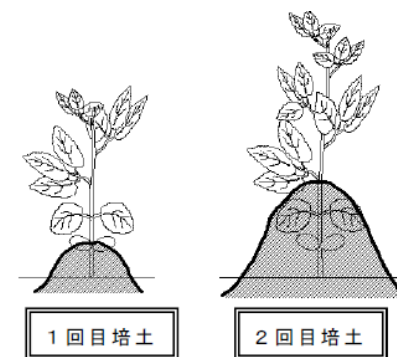
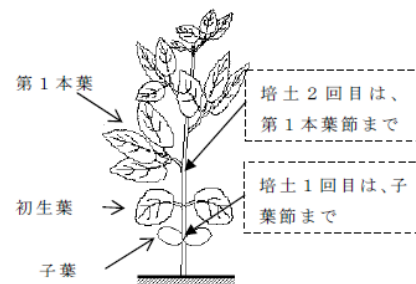
- ①畝立てをして排水性を向上する。株元が窪んでいると水が溜まるため山形に培土する。
- ②培土後地中に入った茎から新根（不定根）が出る。この根の発生時期は播種後20～35日にあたる6月下旬から7月中旬であり、7月中旬までに培土を終える。
土塊が大きいと根が発生しないので雨上がりなど土壌水分が高い時は作業しない。
- ③播種後の除草剤の効果は約1か月でなくなるので中耕で除草する。
- ④通気性がよく湿った土が株元を覆うことで根の伸長と根粒の着床を促す。
- ⑤株元が支持されて倒伏を軽減する。

【培土・中耕の時期と程度】

- ・2回実施を基本とする。梅雨時期の作業となり実施のタイミングが難しいが、大豆の生育に対して作業時期が遅れないように留意する。



	時期	程度
1回目	6月下旬 本葉3～4葉期	子葉が隠れる程度
2回目	7月上旬 本葉5～6葉期	本葉第1葉節まで



- ・圃場周りの枕地部分で培土を行うと額縁明渠へのスムーズな排水を妨げる。培土後に枕地の畝を数箇所切って排水性を高める。高温乾燥期の畝間かん水の実施にも役立つ。
- ・排水不良や播種期が遅く生育量が小さい場合は、培土時に窒素成分で5kg/10a程度の追肥をする。



作業	作業の注意点			
除草	【生育期に使用できる除草剤】			
	使用時期		除草剤名	10a当たり使用量
	茎葉処理イネ科雑草3～5葉期	収穫60日前まで	ワンサイドP乳剤	75～100ml
	茎葉処理イネ科雑草3～8葉期	収穫30日前まで	ナブ乳剤	150～200ml(イネ科雑草3～5葉期)
				200ml(イネ科雑草6～8葉期)
	茎葉処理イネ科雑草3～10葉期	収穫30日前まで	ポルトフロアブル	200～300ml
	茎葉処理 (イネ科を除く、雑草生育初期～6葉期)	収穫45日前まで 大豆2葉期～開花前まで	大豆バサグラン液剤	100～150ml
	雑草茎葉および土壌処理 雑草生育期(雑草草丈15cm以下)	収穫30日前まで 大豆3葉期以降	ロロックス水和剤	100～200g
	播種後出芽前、畝間処理 雑草生育期(雑草茎葉処理)	収穫28日前まで	バスタ液剤	300～500ml
畝間処理 雑草生育期(雑草茎葉処理、雑草の草丈30cm以下)	収穫3日前まで	プリグロックスL	600～1000ml	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 株間処理剤(雑草茎葉および土壌散布)として、ロロックス水和剤が使用可能。 ・ 狭畦密植無培土栽培は大豆が条間を早く覆って抑草するのがねらいだが、排水不良等により大豆の初期生育が不足すると雑草が多発するので、除草剤を適切に使用する。 ・ 除草剤の使用にあたっては、使用基準(使用時期、使用量、成分ごとの使用回数、散布方法、水管理方法等)を必ず守る。 				

ふくいアグリネット「稲作情報システム」のご案内

ふくいアグリネット <http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/>
 稲作情報システム http://www.agri-et.pref.fukui.lg.jp/gizyutsu/ine_sys/index.html

①ふくいアグリネット・トップ→ 農業技術情報 →稲作情報システム

②年度、情報(生育状況、収量・品質)、地域、地点を選択

NO	地名名	品種	栽培方法	地域区分
4	高山一級産	ハナエチゼン	移植	高平中
7	あわのこ伊豆	ハナエチゼン	移植	低平中
45	福井農機一ノ木	ハナエチゼン	移植	低平中
54	福井農機二ノ木(産期)	コヒカリ	移植	低平中
56	福井一級産	ハナエチゼン	移植	高平中
110	福井二ノ木(産期)	コヒカリ	直播	低平中
112	あわのこ(産期)	コヒカリ	直播	低平中
58	福井農機一産	あきさかり	移植	低平中
113	福井農機一産	コヒカリ	直播	低平中
70	福井二ノ木(産期)	コヒカリ	移植	高平中
71	福井二ノ木(産期)	コヒカリ	移植	高平中
72	あまのこ(産期)	コヒカリ	移植	高平中
73	津島二ノ木(産期)	コヒカリ	移植	高平中
74	三田二ノ木(産期)	コヒカリ	移植	低平中
75	丸岡二ノ木(産期)	コヒカリ	移植	低平中
86	高井二ノ木(産期)	コヒカリ	移植	低平中
88	福井二ノ木	あきさかり	移植	高平中
116	丸岡一級産	ハナエチゼン	移植	低平中

③生育状況、収量、品質のグラフを表示

福井県農業情報ポータルサイト「ふくいアグリネット」において、県内各地(約40地点)の水稻の生育状況や収量・品質の調査データを「稲作情報システム」で掲載しています。現在の生育状況はもちろん、過去のデータ(生育、収量・品質)を調べることができます。ぜひご利用ください。

【天気予報】

7月2日17時発表

日付	3 金	4 土	5 日	6 月	7 火	8 水	9 木
福井県	曇時々晴 ☁️🌞	曇 ☁️	曇 ☁️	曇 ☁️	曇時々晴 ☁️🌞	曇 ☁️	曇 ☁️
降水確率(%)	20/10/30/30	40	40	40	30	30	40
信頼度	/	/	C	B	C	C	C
福井 最高(°C)	29	27 (25~30)	28 (25~30)	28 (26~31)	29 (26~32)	32 (29~35)	31 (28~34)
最低(°C)	20	19 (18~22)	19 (17~21)	19 (18~21)	20 (18~21)	22 (19~24)	23 (21~25)

【メールマガジン e農メール】

e農メールの登録については、こちらをご覧ください。
http://www.agri-net.pref.fukui.lg.jp/a_mail.html



携帯電話ではQRコードで簡単アクセス

気象庁 気象統計情報(各種観測データ)
<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>